

第352回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成30年10月29日(月)午前11時00分より
- 2 開催場所 テレビ新潟 会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員 8人

出席委員

豊口 協	委員長	若杉 隆平	副委員長
飯塚 智	委員	中島慎一郎	委員
野内 隆裕	委員	大久保千春	委員
田村 明子	委員	柳川かおり	委員

会社側出席者

代表取締役社長	務台 昭彦
常務取締役放送本部長	竹石 尚史
取締役報道制作局長	永田 広道
取締役編成局長兼番組審議会事務局長	宗田 英成
報道制作局次長兼制作部長	羽田 朗
事務局	山崎 学 小野塚由起子 吉田 康宏

4 議 題

1) 番組合評

「セッキンー新潟5 d a y s」

[放送：平成30年9月30日(日)16:55-17:25]

(説明：放送制作局制作部長 羽田 朗)

2) 会社報告

① 8月・9月の視聴者の意見 (報告：番組審議会事務局)

② 講じた措置、公表など定例報告等 (報告：番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要

会社側からは、「知っているようで知らない新潟にセッキンする5日間」というコンセプトで6月からスタートした番組で、今回は2回目の放送だった。当初は新潟の芸能や観光、特産品などに焦点をあてて5日間に渡り取材し、改めて私たちが知らなかったことをあぶりだしていく内容であったが、やはり人に焦点をあてる方が伝わりやすいのではないかと、今回佐渡に移住してドーナツ屋を開いた若者を取り上げた。試行錯誤しながら制作している番組だが、委員の方々のご意見を番組作りに役立てていきたい、という説明があった。

(委員の意見)

- 最初はドーナツ屋の人気の秘密を探る番組なのかと思ったが、メインテーマが移住や起業であり、若者の移住とは起業するという意味があるのだという印象をもった番組だった。
- たった一人で移住して起業することは大変であり、協力してくれる周囲の方々がいないと難しいのだと分かった。

- 「移住」「起業」「ドーナツ」などテーマが多くあったが、ひとつに絞ってみても良かったのではないかな。
- 佐渡ののどかな風景や人々の映像は落ち着いていて良かった。
- 主人公が佐渡に移住してきた理由や、師匠である大阪のドーナツ屋さんとの出会いなど、分からない部分があった。
- 新潟の良さをじんわりと感じさせてくれるようなのんびり見ることが出来る番組だった。
- 主人公は不思議な雰囲気を持った青年だったが、その不思議な雰囲気が非常に気に入り、もっと青年を知りたくなった。
- 年配の方と若い人たちで、主人公への印象や感想が分かれるテーマだと思った。若い人から見たら、主人公を通して背中を押してくれるような番組だったのではないかな。
- シリーズで今回取り上げた主人公のような若者を追いかけた番組を作っても良いのではないかな。
- 「先が見えにくい状況を気にしない」という青年の考え方に考えさせられた。
- 「欲がない」「夢がない」という今どきの若者の姿を見るような感じを持ちながら見ていた。自分の世代からすると理解できない部分も多々あったが、魅力ある番組だった。
- 視聴者に主人公を通してどれが「答え」なのか謎解きを投げかけているような気がする番組だった。主人公に対して社会の現実とのギャップを埋めるような問いかけを演出していたらもっと分かりやすい内容になったのではないかな。
- 社会が変わり始めているのだと認識させられるような番組だった。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

8月 …… 125件

9月 …… 192件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成30年9月10日)から、昨日(平成30年10月28日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回第351回審議会では、「24時間テレビ41 にいがたスペシャル」を審議いただきました。

委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第352回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) TeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・8月、9月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・BPO報告 NO.192、193
- ・民間放送新聞(9/13、9/23、10/3、10/13、10/23号)

以上